



# 生涯にわたり地域とともに生活していくために ～本校が目指す交流及び共同学習（協働学習）～



交流及び共同学習とは、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が学校教育の一環として活動を共にすることですが、本校では学校間だけでなく、地域や社会との連携の中で、お互いが理解し合える学習を積極的に進めています。

## 学校間交流

・ 同年代の児童生徒と共に活動することで、お互いのよさに気づき、相互理解を図る機会となっています。

### 小学部

近隣の小学校3年生とリズム運動やダンスをしたり、小グループでゲームや制作活動などを行ったりして楽しく交流しています。



バルーン運動



ゲーム（神経衰弱）

### 中学部

近隣の中学校の生徒と学習成果の発表をし合うことで、互いの学校の学習活動を知り、相手校への関心を深めています。

太鼓の響演



## 地域と関わる活動

・ いろいろな体験を通して、地域の人とのふれあいや親睦を図ることをしています。

できた！やりたい！思い



芋掘り交流

近隣の高校の生徒の育てたサツマイモを握る「芋掘り交流」を行っています。

ふれあう



地域の童謡サークルの方々を招待

人の役に立つ



町をきれいにする活動（いすみクリーン作戦）

自己肯定

交流や地域協働において、  
キャリアの視点も大切にしています。

自己表現

自己決定

力を合わせて



駅周辺の美化活動  
（コスモスの種まき）



生産実習での交流  
（長ネギの収穫作業）



酒米の洗米作業

地域を知る



酒造りに必要な酒米の田植え

地域のローカル線を盛り上げるため、鉄道  
存続応援団と一緒に駅周辺の美化活動に  
取り組んでいます。

いすみ市で取り組むプロジェクトに参加  
し、地域の特産の製造に関わっています。



# 千葉県立夷隅特別支援学校

千葉県いすみ市業町30-1 TEL0470-86-4111



いすみちゃんです

## 1 交流及び共同学習の果たす役割

- ・誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会を実現するためには、障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うことが不可欠であり、障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、あるいは、地域社会の人たちとがふれあい、共に活動する機会を設けることが大切となる。
- ・障害のある子どもが幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の子どもと共に活動することは、双方の子どもたちの社会性や豊かな人間性を育成するうえで、重要な役割を果たす。

## 2 目 的

＜学校間・施設・地域交流＞

小・中学校等の同年代の児童生徒との交流や地域の方々との活動を通して、経験を広め、人とかかわる力を育て、社会性や豊かな人間性を育む。

## 3 成 果

- ・学校間交流では、同世代の児童生徒と共に活動することで、お互いのよさに気づき、相互理解ができるようになってきている。小学部は、近隣の小学校との交流の中でリズム運動やダンスをすることで、会話をしたりふれあったりする関わりが増えてきた。中学部は近隣の中学校との交流で、互いの学校の学習成果を発表し合うことで、相手校の活動を知り関心を深めることにつながっている。
- ・地域との交流では、小学部は近隣の高校生が優しくサツマイモの掘り方を教えたり、手伝ってくれたりする中でコミュニケーションを取ることができるようになってきた。中学部は地域の方を招待してミュージカル公演を発表したり、地域の童謡サークルを招いて歌唱指導を受けたりして理解を深めている。また、地域内の清掃を行う「いすみクリーン作戦」を、年間を通して定期的実施することで自己有用感が育ってきている。高等部は近隣の高校生とスポーツや生産実習で交流することで、お互いの良さを認め合う機会を大切にしている。また、地域のローカル線を盛り上げるため「いすみ鉄道活性化プロジェクト」に参加し、話し合いをしたり、駅周辺を花でいっぱいにするための「コスモスの種まき」を行ったりした。地域での活動を進めることで、地域に認められるようになっていく。

## 4 研究との関わり

- ・本校はキャリア教育の研究を行っており、交流や地域協働においても、キャリア教育の視点を大切にしている。一人一人の社会的・職業的自立に向けて、小学部段階では基礎的生活習慣の確立や人間関係の基盤形成を考え「成功体験を積み重ねる」中で自己肯定できるようにしていく。中学部段階ではコミュニケーションの確立や社会生活能力の育成を考え「身近な地域とのふれあいや貢献する」中で自己表現できるようにしていく。高等部段階では持続力と就労を考え「働く生活・働き続けるモチベーションを維持」する中で自己決定できる力を身につけていく。

## 5 準備・実施段階の工夫

- ・地域との交流では、継続して交流をしている小中学校及び近隣の高等学校と交流について各学部の交流係は打ち合わせをし、日時と内容を決める。電話及び訪問をして打ち合わせを密にし確認する。地域で行われるプロジェクトなどに参加して、地域の一員として関わられるようにする。

## 6 広報活動とその成果

- ・交流及び共同学習については年4回発行される「地域支援だより」に交流コーナーのページを設け、実施した内容の写真を入れ分かりやすく配信している。今年度は「学校だより」でも、交流及び共同学習について掲載した。本校で取り組んでいる交流学習が地域の方に少しでも理解されるよう広めている。